

# シラバス詳細

タイトル「2023年度」、カテゴリ「教養教育科目」

和文・英文ボタンを押すことで、和文↔英文の切り替えができます。

和文 英文

医学部のシラバスはこちらから。  
医学系研究科博士課程のシラバスはこちらから。

## 科目情報

### コースナンバリング

1-890x000

### 科目名

コミュニケーション論

### 開講学期

後期

### 開講時期

3クォータ

### 曜日・校時

時間割外

### 単位数

< BACK

米満 潔、古賀 崇朗

## 講義情報

### 学士力番号

1-(1)

### 曜/限追記

時間外

### 講義形式

演習形式

### 講義概要

本科目は、総合的なコミュニケーション能力の向上につながる基本的な知識や技能を修得するための講義を行う。基礎理論、言語、非言語コミュニケーション、対人的コミュニケーションから異文化コミュニケーションまでを包括的に取り扱う。講義は複数名の教員で担当するオムニバス形式の授業である。

### 開講意図

現代社会において最も重要なスキルであるコミュニケーションについて学問的な知識を身につけるために、さまざまな観点からコミュニケーションの概念について理解する。

### 到達目標

- 1.コミュニケーションに関する基本的な知識を得る。
- 2.コミュニケーションに関するレポートが作成できる。

【学士力番号1(1)(2)(3);2(1)(3); 3(1)(2)(3)】

### 聴講指定

インターネットが利用できる環境であること。最大170名まで。

○開講時に必ずオンラインガイダンスを受講してから受講を開始すること。

○授業計画に従って、それぞれの講義を予定された期間内に受講し、課題となっている小テストやレポートを、オンラインで提出する。



○講義日程については、ネット授業の科目の掲示板を参照。

## 授業計画

回	内容	授業以外の学習 <b>本科目は、単位数×45時間の学修が必要な内容で構成されています。授業として実施する学修の他に、授業の内容を深めるために以下の事前・事後学修が必要です。</b>
1	イントロダクション (角和博)	レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
2	対人的コミュニケーション1 (1) (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
3	対人的コミュニケーション1 (2) (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
4	対人的コミュニケーション2 (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
5	コミュニケーションの基本1 (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
6	コミュニケーションの基本2 (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
7	言語コミュニケーション (角和博)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
8	コミュニティ・コミュニケーション (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
9	手と手を繋ぐ異文化コミュニケーション (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
10	異文化間コミュニケーション2 (早瀬博範)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
11	異文化間コミュニケーション3 (Z.ミッチェル)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
12	異文化間コミュニケーション4 (R.ウィリアム)	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理

回	内容	授業以外の学習  <b>本科目は、単位数×45時間の学修が必要な内容で構成されています。授業として実施する学修の他に、授業の内容を深めるために以下の事前・事後学修が必要です。</b>
13	高度情報コミュニケーション（角和博）	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
14	インターネット・コミュニケーション（岡崎泰久）	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理
15	協同学習手法におけるコミュニケーション（米満潔）	小テスト・レポート作成、講義で使われた専門用語の確認と整理

## 成績評価の方法と基準

以下の2つの観点から総合的に評価する。

- (1) 受講状況（受講期間厳守）と各講義の課題（85%）：到達目標の(1)(2)
  - 各講義の課題を期限内に提出のこと。未受講のものが全講義の1/3を越えた時点で放棄とみなす。
  - また、課題の未提出・未解答のものが全講義の1/3を越えた時点で放棄とみなす。
- (2) 最終レポート（15%）：到達目標の(1)
  - オンライン上で出された期末レポートの課題をオンラインで提出する。
  - 最終レポートの提出は必須です。未提出者は、(1)の状況に関わらず放棄とみなす。

## 開示する成績評価の根拠資料等

各講義の確認テストは、すべて講義終了後にネット上にアップする。

## 開示方法

ネットにより随時対応する。

## 教科書

資料名		版
著者名	発行所名・発行者名	出版年
備考（巻冊：上下等）		ISBN

## 参考図書

資料名		版
著者名	発行所名・発行者名	出版年
備考（巻冊：上下等）		ISBN
異文化間コミュニケーション入門：国際人養成のために		
L.A.サモバー, R.E.ポーター, N.C.ジェイン 著；西田司 [ほか] 訳	聖文社	1983

## リンク

オンライン試験システム（オンライン授業支援システム）

教務システム（ライブキャンパス）

## オフィスアワー

月2

## アクティブラーニング導入状況

アクティブラーニング導入状況				
カテゴリ4	カテゴリ3	カテゴリ2	カテゴリ1	カテゴリ0
学生が自ら主体となって、学習の方向性を定め、問題解決に導くための時間です。PROBLEM BASED LEARNING	グループや個人で行った能動的学習の成果を、教室内外で発表し、その評価を受けたり、質問に対応したりすることにより、学修した内容を深化させるための時間です。OUTPUT	学生自らが自由に発言し、グループやペアでの協働活動により課題に取り組み、何らかの帰結に到達するための能動的学習の時間です。INTERACTION	学生からの自由な発言機会はないものの、授業時間中に得られた知識や技能を自ら運用して、問題を解いたり、課題に取り組んだり、授業の振り返りをしたりする能動的学習を行う時間です。ACTION	基本的に学生は着席のまま、講義を聞き、ノートを取り、知識や技能を習得に努める時間です。INPUT
0	0	0	70	30

＜ 他  
BACK

(機械システム工学科) 学習・教育到達目標(7-1)

(電気電子工学科 [2023年度卒業生まで]) 学習・教育到達目標(D1)

(理工学科機械エネルギー工学コース) 学習・教育到達目標(7-1)

(理工学科メカニカルデザインコース) 学習・教育到達目標(7-1)

  
TOP

  
BACK